

## 塩竈市

### 塩釜市浅海漁業振興協議会（宮城県）



## 「浅海養殖漁業消費拡大推進事業」

### 【事業目的】

東日本大震災による津波被害は塩竈湾の浅海養殖漁業者に甚大なダメージを与え、浦戸地区を中心として総額約12億円もの被害となった。被災後、カキ処理場、ノリ乾燥機など養殖漁業に不可欠な施設設備は、国内外の支援や施設の共同利用などによって何とか生産を再開した。

しかし、近年の産地価格の低迷による漁業所得の減少に加え、被災により浅海養殖漁業者の経営状況は極めて厳しく、漁業従事者の高齢化による廃業や、所得の低下による後継者不足の問題がより深刻さを増すことが予想される。

そのため、浅海漁業施設を早期に復旧するとともに付加価値の向上に向けたブランド化等への取組みや協業化の取組みを推進し、漁業所得の増加による経営環境の向上を推進している。

塩釜湾において、養殖漁業を中心として生産活動を行う塩釜市内の漁業協同組合の連合体である塩釜市浅海漁業振興協議会は、共同して地元産のノリ、カキ、ワカメ、コンブなどのPR活動を行い、地産地消の推進と消費拡大、販路拡大を図り、早期の復旧・復興を目指す。

### 【事業実施状況・成果】

「2013塩釜フード復興見本市」  
日 時：平成25年2月20日（水）9：00～16：00  
場 所：グランドパレス塩釜  
来場者：1,050名（水産関係者、バイヤー及び一般市民）

実施事業において協議会でブースを設置し、来場者等に協議会の実施事業内容や浅海養殖物のPRをするためのパンフレットを配布した。これにより、本協議会での製品の販路拡大をするための基盤整備を実施することができたと考えられる。

今年度は、養殖漁業においては気候の変動などが多く、主要産品であるカキ、ワカメが不作である状況であり、バイヤー対応において苦慮されたところであったが、それぞれの漁業協同組合による新たな取り組みである「あたまっこカキ」「CAS生ワカメ」などの来場者への周知が実施されたことは大きな成果であった。

また、震災前の県内連携開催（気仙沼市、石巻市と同時開催）が実施不可となる単独開催の厳しい状況であり、当初、見込まれた来場者が増えない状況ではあったが、復興の一助となるように事業が実施できたことは大変有効な事業であったと考えている。

### 【今後予想される事業効果】

今回配布されたパンフレットにより、本協議会の事業内容及び浅海養殖生産物が周知されることにより、今後、関心を持つバイヤー等が生産物の供給及び研究事業の依頼等が実施されることが見込める。また、震災からの復興支援として、宮城県内の製品の消費拡大につながり、復旧・復興を加速化させるための原動力となることが考えられる。